

東山動物園「再開」

多くの家族連れで賑わう名古屋市の東山動植物園。自宅から近いこともあり、何年か前には日曜ごとに行っていた。「年間パスポート券」を購入したこともある。星ヶ丘門の植物園から入り、動物園をざっと見て、本山の生協まで歩いた。まだ若かった。今も気持ちだけは若い。

そんな動物園が、鳥インフルエンザのため、1カ月間にわたって休園し、1月13日に再開した。嬉しいかぎりだ。翌日からの寒波襲来で、大雪の週末となった。

写真上は朝日新聞14日朝刊。園では鳥インフルエンザの感染疑いが発覚した昨年12月以降、ペンギン舎とエミュー舎にネットを設置した。エサを目当てにやってきた野鳥との接触などによる感染を防ぐためだ。営業再開後も撤去しなかった。園の担当者は「見づらいが鳥の命を守るため。理解してほしい」と説明する。感染の心配がある冬が過ぎてもネットで覆われたままにするつもりだ。

記事見出しには「垣根ない」動物園、ジレンマとある。写真解説で「すっぽりとネットで覆われたペンギン舎では、飛来した野鳥がネットの上を歩く姿がみられた」とある。ペンギンよりも、大きな野鳥に注目した。こんなに大きな野鳥が、自宅も近い動物園境界に飛来してくるのに驚いた。その昔の「がちょーん」に文字って、「やちょーん」と言いたくなる。

下の写真は、オランウータン。これは一昨年（2016年）の11月、目の手術で名古屋市大病院に入院する前の週に撮ったものだ。この写真はお気に入りの一枚だ。隣の「イケメン・ゴリラ」前には、多くの人々が来ていた。オランは「さびしいぞ」、「ウータン」とすねている感じなのが、入院前の私の気持ちにぴったりだった。今も同じであるが。

3枚目の写真は、自宅の星ヶ丘から東山公園に向けて歩く下り道だ。行きはよいが、帰りはつらい。この坂道で楽しみなのが、動物園側につづく緑のこけだ。ふだんは目につかないが、雨降りや雨上がりに、あざやかな緑色になる。東山動植物園の中だけでなく、外にもまち歩き「スポット」がある。

(2017年1月20日)

